



寺報 ともしび

金剛山大長寺

令和二年四月二十三日発行

第十一号

院代としてのご挨拶とご報告 院代 安藤 嘉則

コロナウイルス感染症の流行が私たちの生活にさまざまな影響を与えています。今年の大施食会は檀信徒の皆様の健康と安全を第一に考慮し、皆さんが一同に会することを避けて実施させていただくことになりました。一刻も早い感染症の終息が待たれます。(四ページ参照)

さて、私は、院代として大長寺の檀務をつとめさせていただいております。この院代という役職は住職の代行として法務を行う役職です。大長寺は幼い頃からよく来訪しており、特に祖母の大森ミツおばあちゃんからよくお話をきかされておりました。

二十年以上も前のことですが、当時『禅の友』に二年間『遺教経』というお経の解説を連載しておりました。そのときミツおばあちゃんが繰り返し『口ずさんでくれた次の歌(道歌)』を紹介いたしました。

心こそ 心迷わす 心なり 心に心 心ゆるすな

大長寺の皆さんの中にはこの歌を聞いたことがある方もおられるのではと思います。私は祖母から聞いたこの歌を大変印象深く受け止め、『遺教経』の解説の文章に織り込んで説明したのです。当時、祖母から聞いたこの歌を全国の曹洞宗の檀信徒の皆さんに紹介できたことを誇りに思いました。またこの連載文はアメリカの曹洞宗の出版物にも英訳され、禅センターで読まれたので、おばあちゃんのこの言葉がアメリカに渡って読まれたことになりました。なお、この連載は後に『遺教経に学ぶ』として一冊にまとめられ曹洞宗宗務庁で販売されております。

ところで私は土日以外のウィークデイは、東京稲城市に所在する駒沢女子大学の教員として仏教学などを講じております。この三月一九日には、駒澤大学より博士号の授与され、また四月一日より駒沢女子大学学長に就任いたしました。ここに大長寺の皆様にご報告させていただきます。

私は仏教学の研究を四〇年以上も続け、大学や朝日カルチャーセンターなどで講話をしておりますので、その蓄積を皆様に還元すべく、毎月第三日曜日に大長寺仏教講座を開いております。

これからも大長寺におきまして住職、副住職とともに大長寺の護持、発展のために努力させていただきますので、どうかよろしくお願い申し上げます。



涅槃会で講話する大長寺院代 安藤嘉則師

駒沢大学より博士号と駒沢女子大学学長就任の栄誉 仏教学研究40年以上、学生・檀信徒・社会のために

駒沢女子大学は昭和二
年に駒沢の地に駒沢高等
女学院として創立されま
した。戦後、駒沢女子短
期大学となり、平成五年



学長を務める駒沢女子大学

は二十七年目を迎える比較
的新しい学校です。この大
学は、道元禅師の禅の心を
建学の精神とする女子高等
教育機関です。

に駒沢女子大学がでまし
た。駒沢女子大学は、人間
総合学群（人間文化学類・
心理学類・観光文化学類・
住空間デザイン学類）と人
間健康学部と看護学部から
成り、駒沢女子短期大学に
は保育科があります。学校
の起源は九十年を超えませ
が、短大は約五十年、大学



世界一大きな越前和紙に描かれた涅槃図



曹洞宗の宗門関係学校の講習会で記念講演を務める



仏教学の授業での坐禅

設にこぎつけました。
当時のテレビ報道番組で駒沢
女子大学看護学部と加計学園獣
医学部が対比されました。その
ような経緯もあって、現在私は
看護学部にも所属しています。

大事な行事や会義には、永平
寺の監院老師（永平寺の禅師様
に次ぐ方）、周年事業（九十年
記念行事など）には永平寺の
禅師様が必ず来られます。
駒沢女子大学では平成三十年
に新たに看護学部を新設しまし
たが、この看護学部の設置に私
は関わり、設置の趣旨を書いた
り、文部科学省に通って指導を
受けて、ようやく看護学部の新

また昨年夏には曹洞宗の宗門
関係学校の講習会が大本山永平
寺で開催されましたが、そこ
でも記念講演を務めさせて頂き
ました。（宗門関係学校とは駒澤
大学・東北福祉大学・鶴見大学・
愛知学院大学・駒沢女子大学・
世田谷学園などです。）

本学では、仏教学が必修で、
学生の皆さんは何回かは坐禅堂
において坐禅を組みます。また
中学高校がメインですが、摂心
会や成道会、涅槃会という行事
に学生生徒が参加しており、そ
の際私が講話を行っています。



学園摂心会（早朝坐禅会）

道元禅師のごとば

院代 安藤 嘉則

自を見ること他のごとくなるの痴人あり。他を顧みること自のごとくなる君子あり

この道元禅師の言葉は『典座教訓』に示されたもので、その意味は「我が身のことを見ていても、まるで他人ごとのように見る愚か者がいる。その一方で他人を見るとき自分のことのように受け止めるりっぱな人物（君子）もいる」というものです。道元禅師は、禅寺の食事を司る典座（てんぞ）のお役目を大

変重んじました。それは、修行僧のために心をこめて食事づくりに打ち込む行いそのものが、自己を豊かにする大切な修行に他ならないからです。そこには

他者を自分のことのように見つめる眼差しがなくてはなりません。しかし、逆に、自分のことであつても、まるで他人事のようににして食事づくりなどの修行をないがしろにして、自らを高めるチャンスを見逃している人もいます。

昭和の名僧、沢木興道老師が、或る婦人会で講話をなさったと

きのこと。その婦人会の会長が、講演を終えた沢木老師に、おしぼりをお持ちしながら「本日は結構なお話ありがとうございます。さぞかし聴いていた、うちの嫁も耳が痛かったと思えます」とお礼の挨拶をしたそうです。

その後、入れ替わりにそのお嫁さんがお菓子とお茶をもって入ってくると、「本日はすばらしいお話をありがとうございます。さぞかしうちのお姑さんも、耳が痛かったらうと思えます」と述べたとの事。せっかくの天下の名僧のお話も二人にとって他人ごとだったのです。

どんなありがたいお話でも、これを自分の事として受け止め

てこそ、切実なものになります。自分のことは棚に上げておいて、一般論として聴いている限りでは、駄目なのです。それでは自分の普段の行いに何の影響も与えません。一人称の受け止めともいえましようか、それが大切なのです。

ところで名僧のお話でなくとも、私たちの日々の何気ない、ふだんの生活の中に実は大切なメッセージが発信されているはず。音楽家の荒井由実さんの歌で、「やさしさにつまれたなら、目に映るすべてのことがメッセージ」と歌うフレーズがあります。なにげないお母さんの気遣いの中に、言葉では表せない大切なメッセージを受け止める人もいることでしょう。問題は普段の当たり前の生活の中に、自分のこととして受け止めようとするアンテナがちゃんと立っているか、そこが肝要なのではないでしょうか。

特別志納者の紹介

コロナ感染防止と施食会

副住職 安藤 道隆

今年の大長寺「施食会」は、供養は行いますが、参列については、檀信徒の皆様には、ご遠慮頂くことになりました。供養したお塔婆を本堂前に用意しますのでお持ち頂き、墓前にお参りしていただきます。

これは春彼岸前、役員会を開き、協議した上で、決めさせていただきますました。

その理由は次の通りです。

○三百人近い檀家様が、本堂で密集し、感染のリスクが高い

○参列者には、高齢の方が多い

○お檀家様の健康と安全が第一

緊急事態宣言が発令され、外出の自粛要請、店舗の休業要請等が都道府県により出されています。致死率はインフルエンザの一〇〇倍ですが、どんなウイルスも、私たちの目には見えません。

一番の対策は、

○人との間隔を適度に保つ

○手洗い、うがい

○不要不急の外出は避ける

です。それを徹底することで、感染を防げるならば、そんなに難しい事ではありません。

マスク着用は、自分の予防と人に飛まつを飛ばさないことが重要なことだそうです。

緊急事態宣言で、安倍総理と小池都知事は、異口同音に「自らの行動を変えて下さい」と発言されました。

仏教的に申し上げますと「自己を見つめて精進せよ」すなわち、今一度、自分を見極めて限りある人生を歩みなさいということになります。

亡き母が残した詩を紹介します。

「散るさくら 無常のおしえ
さとすなり」

今は、コロナに感染しない、させない行動をとることが重要です。両親から頂いたわが身お命を大事にする事が、自分の行動を変えることなのではないでしょうか。コロナが終息することを願ってやみません。

ご逝去の方々と命日